東九州支部報

第９９号

公益社団法人日本山岳会東九州支部
2022年10月25日（火）発行

第１９回　青少年体験登山大会　久住山頂にて　令和４年9月11日（日）

もくじ

１．支部活動		分水嶺踏査で習得した登山技術	１１
山の日（亀石山）実行委員会主催行事	２	私の無名山ガイドブック No.86	１１
５月　月例山行（障子岩）	３	前穂高岳北尾根	１２
８月　月例山行（鹿嵐山）	４	越後・信州の山々①	１４
山の安全を祈る集い	４	越後・信州の山々②	１６
中級者研修①（大野川水系　黒原谷右俣）	５	谷川岳一ノ倉沢南稜	１８
中級者研修②（クライミング基礎編　由布岳観音岩）	６	長崎県　竜頭泉	２０
第19回　青少年体験登山大会	７	木本義雄さん追悼文	２１
登山教室（実践講座　本宮山）	８	３．支部からの報告（支部会議報告）	
登山教室（実践講座　鋸山）	８	会務報告	２２
２．個人投稿		お知らせコーナー	２２
ペンリレー（第45回）　※今回はお休み	１０	後記	２４
より安全な登山のために No.46	１０		

山の日（亀石山）
ふるさとの山を登ろう in 日田・亀石山

2022年8月11日（木）

（会員　9169　阿南寿範）

国民の祝日「山の日」にちなんで、山の日制定の「山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝する」の趣旨の浸透を図ることを目的として、大分県「山の日」登山実行委員会大分県下３団体（大分県山岳連盟、公益社団法人日本山岳会東九州支部、大分勤労者山岳連盟）が広く一般の登山愛好者などに参加を呼びかけて実施するもので、「ふるさとの山に登ろう」をテーマに、毎年県下の市町村の山を順に登ることにしており、本年は日田市の山で、市民になじみの深い「亀石山」を選んで登山会を開催した。

集合場所の亀石峠駐車場で午前９時30分から受付をして、山の日のパンフや記念品などの資料等を配付、午前10時から開会セレモニーで実行委員長（日本山岳会東九州支部安東支部長）が挨拶、続いて登山中の注意事項などを（大分県山岳連盟原会長）が伝えたあと、10時15分から登山を開始し、11時50分、山頂へ全員到着。晴天の展望を楽しんだ。頂上で解散し下山は各々行い受付時の駐車場で下山確認を行った。事故等もなく全ての行事を終了した。

参加者は、コロナの影響もあり前回より少なかった。受付名簿で61名であった。

亀石峠駐車場付近

亀石山山頂集合写真

５月　月例山行

障子岩（通称　前障子）

2022年５月22日（日）

（会員　16103　丹生浩司）

５月22日午前６時、緒方の道の駅原尻に参加者17名が集合。

計画書、地図を配布し各々の車で健男社の登山口へ。神社前の駐車場は大変狭いため事前に神社の駐車場の利用許可を地区の方にお願いしていて大変助かった。

６時40分点呼の後、宮原さんを先頭で出発。17名が一列で鹿除けネットの横を登っていく。１回目の休憩をした場所にまだ幼い小鹿が寝ていた。我々も驚いたが小鹿も我々の声に驚き走り出しネットに突進。ネットに絡まるかと思いきや網をすり抜け逃げて行った。女性陣は「親とはぐれだいじょうぶかなぁ」と心配していた。

そんな騒動で休憩も終わり歩き出す。

杉の樹林帯の中を抜け小さな谷を渡渉すればいよいよ急登が始まり、これから黒岩山までずっと急登が続く。岩の間を通ったり、またいだり、ロープで登ったりしながらゆっくりと高度をかせいでいく。長い急登と時間の長さで沈黙が続く。そんななか、足元のギンリョウソウの可憐さに癒され一瞬ほっとする時間ができる。

岩場にさしかかるとヘルメットを着用、やっとのことで1204mの黒岩山に着く。

ここからは周りの木の綺麗さに声が出る。

稜線をゆっくり落ち葉を踏みしめながら歩く。

大きな岩をまいて、モミ、ツガ、カヤ。アケボノツツジ、シャクナゲ、ミツバツツジの花も終わった中を登ると目の前に岩峰が現れた。

４時間かけてたどり着いた障子岩の岩峰である。

安全のため、鹿島さん、笠井さん、丹生でロープを張ることにする。50メートルのロープは下段に、30メートルロープは上段に固定。

張り終わるまで少し待っていただいた後、順番に登ってもらう。

山頂は東と西に分かれ両方ともに狭い。西はとても景色が良く順番に入れ替わり景色を堪能する。

そのあとは記念撮影。準備をしているとシャッターを押しに来たかのように３人組が頂上へ。さっそくお願いし撮っていただく。

今度は反対に写真を撮ってあげた。

これから下山、全員がロープを使って降りてしまうとちょうど12時に。少し降りた場所の良いところで昼食を摂る。ロープを片付け昼食場所に着くと食事は始まっていた。おなかも満たされ点呼をとって下山にかかる。下りも宮原さんを先頭で順次列をつくり下りていく。

黒岩山までは順調であったが急な下り坂では慎重になり17名がゆっくり時間をかけ降りて行く。谷を渡り、杉林の中を通り鹿除けネットに沿って降りていくとやっと集落が見えてきた。砂防ダムの横を通り集落を抜け駐車場へ。支部長に下山の報告をした後、解散式を行う。

月例参加の皆さんお疲れ様でした。全員無事に下山でき感謝しています。

また、神社の駐車場を快く貸してくださった地区の方にお礼申し上げます。

＜参加者＞

リーダー　丹生

飯田(勝)、鹿島、中野(稔)、宮原、神田、平原(健)
久知良、笠井、柳瀬、清水(道)、清水(久)
古屋(耕)、平原(瑞)、中野(梨)、飛高、橋本(真)

前障子山頂

８月　月例山行

鹿嵐山

2022年８月28日（日）

（会員　15735　今川美智子（旧姓 若月））

私の人生、山優先なのでウィークエンドはなるべくそうする事にしている。

今回久しぶりに山行に参加する事が出来た。第１登山口からのメンバー18名プラス中央登山口からは４－３名（３名はリタイア）。

８月末になると朝晩かなり涼しくて気持ちがいい。８時、第１登山口に集合してリーダーの笠井さんより挨拶がある。下見に来た日は前日に雨が降り、途中の急坂は滑って危ないのとブヨも沢山いるので注意するようにとの事。最初のピークの雌岳までは風もなく展望もなくヒノキの植林帯を過ぎジグザグの急斜面をひたすら登る。こんなにキツイ山だったかなあ、物忘れがとても良い私は４～５回は登っているはずなのだが。雌岳（730m）山頂で一休みして、次は雄岳へ向かう。鞍部からピークへの登りの北側にツクシシャクナゲの木が点在している。そのシーズン頃は人気だそう。

雄岳山頂（758m）には１等三角点がある。北側に八面山や鬼落山が望める。そこに中央登山口から登ってきた飯田さんが待っていた。集合写真を撮り、まだ10時過ぎだったがこの先集団で休憩する良い場所がないとの事なので、私はカレーライスの早弁を食べてしまった。下山は登ってきた反対の西に進む。すぐに物凄い急坂下りが始まり、ロープや木の幹や枝につかまりながら皆ゆっくりと慎重に降りていく。景色を見る余裕はあまりない。やがて溶岩凝灰岩の痩せた尾根が出てくる。俗に言う万里の長城と呼ばれる景観で奇岩、巨岩は見るものを飽きさせず、自然のなした造形は感動的である。所々で身体のバランスを取らないとしりもちをついたり、頭を打ったりする人もいたが皆無事に地蔵峠まで下山する事が出来て一安心。地蔵尊に数人が行っている間、おやつのゼリーやぶどうを頂いて休憩する。山友と色んな話をしながらの山歩きはいつもとても楽しい。日常ではなかなか遇えない植物を見ると嬉しくなる。この日は、ミヤマウズラ、アキノタムラソウ、ボタンズル、ボタンクサギ等。ほどなくして第２登山口に到着、ここから県道を下り気味に20分程歩くと第１登山口に戻る。笠井リーダーは、「今日は、下見の時に比べて地面が乾いていて歩きやすかったし、虫もほとんどいなかった。暑さも覚悟していたよりも涼しくて良い登山が出来て良かった。」と無事を労い解散した。

鹿嵐山山頂で

＜参加者＞

笠井、古屋(耕)、古屋(あ)、中野(稔)、中野(梨)
佐藤(美)、平原(健)、平原(瑞)、境、下川、中島
飛高、青木、安部(可)、木下、榎園、山村、鹿島
飯田(勝)、石神、今川

山の安全を祈る集い

2022年８月７日（日）

（会員　9169　阿南寿範）

８月第一日曜日（７日）は「山の安全を祈る集い」を行う日である。この行事は支部が企画し、法華院温泉山荘と共同で開催するものであります。2010年を第１回目とし今年で12回目を迎え、第10回目には遺族の方をお迎えして執り行われています。

この安全を祈る集いの始まりのきっかけは、昭和初期、久住山の２名の遭難事故でした。

当時２名は、熊本県阿蘇山の登り、その帰り久住山に登る計画でした。南登山口より登り始めた２人は途中、池の小屋付近で天候の急変で風雨に見舞われ小屋を探しますが見つからず御池の付近で体力の限界を迎え帰らぬ人となったのです。そ

山の安全を祈る集い

の後、遺族関係者によって、この地に慰霊碑が建てられ安全を見守っています。1980年この慰霊碑が時の悪天候により倒伏し、それを東九州支部有志によって此度元通りの位置に復帰された。時間の経過とともに遭難事故は忘れ去られていたが、前加藤支部長らが、慰霊碑への案内板等を設置するなどして、事故を風化させない様にと安全祈願祭を続けてきたものであります。

この日の支部参加者は18名。牧ノ戸峠レストハウス駐車場に、午前８時までに集合。11時に慰霊碑の前で式典を行うので皆それぞれ牧ノ戸峠駐車場を出発。ここから現地までの所要時間はガイドブックによると約２時間半、私も晴天の中をゆっくりペースで歩いた。沓掛山、久住避難小屋の前を通り、久住別れから天狗ヶ城方面に一旦下り、御池の畔を少し歩き遭難碑へと続く稜線に出て、遭難碑前に30分前に着いた。すでに法華院温泉山荘の弘蔵氏の姿が見られ、挨拶を交わす。久々に顔を合わせる会員もいたので会話しながら式典を待つ、小腹もすいたが11時になったので、中野会員の司会のもと、安東支部長が、安全登山の意義について話され、続いて弘蔵氏の読経が始まる。読経途中から参加者一人一人焼香を行う。亡くなられた山の友のご冥福を祈り、これからの安全登山を誓った。式典を終え昼食とした。慰霊碑の前で思い思いに腰を下ろし弁当を開く。毎年雨に泣かされる日が多く今日の晴天は友の悦びの晴天かもしれない。

＜参加者＞

(リーダー)中野(稔)、安東、星子、阿南、下川
櫻井、工藤、今川、土屋、神田、尾家、河野
笠井、中野(梨)、清水(道)、清水(久)、古谷(耕)
古谷(あ)、遠江、飯田(勝)

中級者研修①

（大野川水系　黒原谷右俣）

2022年８月20日（土）

（会友　253　上野展子）

何度か沢登り(初級)の経験はあるが、今回は中級と聞きついて行けるのか不安でいっぱいだった。遡行図を見て予習するがちっとも頭に入らない。

過去のデータを見ると、広河原橋ー二俣(H620)(2:35)、二俣ー分岐(H860)(3:40)、分岐ー林道(H1070)(1:10)

二俣までロスする事なく、その後に時間の余裕を持たせたいと考えていた。

参加者10名を３パーティ(田所･一般参加者２名)(佐藤彰･笠井･上野)(秋山･一般参加者２名)に分け、それぞれパーティごとに行動協力、難しい所はパーティ関係なくみんなで協力し進む事となった。因みに安東リーダーはフリー。

7:50　広河原橋より入渓

天気は曇り　暗い沢だった。

私は佐藤、笠井両メンバーに助けられながら登って行った。途中、メンバー１名が体調不良、少し休憩を取り様子を見る。H500の大岩。登れないと判断した我チームは左を巻く事に。田所さんはチャレンジ。巻いている最中、「上からロープ垂らして」と田所さんの声、「まだ、上まで辿り着いてません、待って下さい。」と私。急いで上まで上がるが田所さんの位置がわからず、モタモタ。安東リーダーが「急げ、危ない、落ちるぞ。」ロープを出すのに手間取っている時、田所さんが自力で滝を登り上がった。「セルフビレーなんかより、とにかく早くロープを投げろ！」と安東リーダーより叱責。

同じ様に大岩を巻いた他のメンバーとともに沢へ戻るため懸垂下降。初めてのメンバーへの指導声かけ、まず安東リーダーのお手本。カラビナにムンターヒッチで１人また１人と降りて行く。初めてにしては型になっていた。若いと覚えも早いと感じた。この時点で９時、予定より遅れ気味だ、焦る。少し進んだ所で先程のメンバーがまた動けず、撤退を決定。沢の左岸を下る。

時間があるので尾平クーチ岩へ移動、懸垂下降の練習をすることになった。

最初に安東リーダーによる講習。２チームに分かれ、クライミングと懸垂下降の練習をした。

反省

普段一緒に登っていないメンバーとの意思の疎通の難しさ、自分自身がついて行くのが精一杯の状態で初心者と行動する事の大変さを感じた。(スラブの岩に押し上げ、上がったと思い目を離している間に滑り落ちて来た)

１番の反省点は上記にも記述した大岩での危機感の欠如。田所さんに怪我がなくて良かった。

色々と勉強になった研修だった。

次回は、完登したいと思った。

〈参加者〉

(リーダー)安東、田所、笠井、佐藤(彰)

秋山、上野　　一般参加者（４名）

尾平クーチ岩にて安東リーダーの実践講義

黒原谷遡行

中級者研修②

（クライミング基礎編　由布岳観音岩）

2022年９月25日（日）

（会員　9193　安東桂三）

（概要）

石鎚神社の岩（日出町）開催予定だったが、参加者数多く、研修場所を由布岳観音岩に変更して開催した。

県道11号、水ノ口谷出合の駐車スペースにて、ミーティング。林道を歩き、台（読み仮名は、でえ）まで登り、牧野道を歩き、観音岩基部に移動、数パーティに分け、それぞれの課題に取り組んだ。初心者クラスは、懸垂下降技術から始め、1ピッチのルートクライミング。初級以上は、トップロープ形式によるクライミング。また、数名は、リード練習も行った。アクシデントが起こったときのロープの登り返しも行った。

（反省、課題）

人数が多いので、研修場所の選定が難しかった。また、参加者のレベルがまちまちなので、個々の習熟度を上げるのに無理があった。研修の内容は、正しい知識、正しい技術、正しい判断をする岳人になることを目標に置いていたが、一度の研修では、それは難しく、きっかけになればと思う。一般参加者のうち、１名が準会員申請中、２名が会友希望であり、今後の上達を期待したい。また、現会員のレベルアップも期待したい。

〈参加者〉

安東、鹿島、田所、佐藤(裕)、佐藤(彰)

平原(健)、笠井、生野、平原(瑞)、上野

一般参加者（５名）

由布岳観音岩の全景

左リッジ

中央部の凹角　フェース

観音岩基部

第19回　青少年体験登山大会

2022年９月11日（日）

（会員　16315　佐藤裕之）

好天で空気も澄み、山頂で一時霧が出たが、概ね登山日和であった。大きな事故はなく、盛会の裡に終了した。全体的に統率のとれた行動で、概ね良かったのではないか。参加者も山の楽しさを存分に味わっていた。良い雰囲気であった。

参加者の中に３歳の幼児がおり、元気だったが途中で寝てしまい、スタッフが対応に追われた。今後の課題である。

今年はバス参加者が10人と少なく、費用もそれなりにかかることから今後どうするかといった課題が残る。

最近、牧ノ戸からの登山者が増加し、常時、駐車場が不足するようになった。大人数で行くときは、この点も気がかりである。

足の攣った（かけた）人及び筋肉痛の人が数名いたが、漢方薬・エアーサロンパスでことなきをえた。装備の重要さをあらためて、痛感した。

参加者一般　36人　会員等（リーダー含む）
25人　計61人
のんびり 46人　　元気 ７人　　健脚 ８人
コース　のんびりは牧ノ戸から久住山頂往復
元気は＋星生　健脚は＋中岳など

青少年体験登山大会　久住山山頂

第９期　登山教室
（実践講座 本宮山）
2022年10月２日（日）
（会員　16315　佐藤裕之）

10月２日（日）

実践山行の初回鶴見岳に続き、２回目の山行である。今回は、本宮山で地図の研修をする。

地図研修は座学のみでは困難な面があるので、本宮山にて、もっぱらプレートコンパスの使い方の学習をする。

西寒多神社出発後、堤にて山座同定、ルートの見極め方、探し方の研修を行う。その後、途中の数か所で、リーダーの指導の下、現在地の確認のポイント、地形の読み方などの研修を行う。

受講生からは、丁寧に指導してもらい勉強になったとの声をもらい、概ね好評であった。受講生はもちろん、参加する会員にとっても、良い研修になったかもしれない。

本宮山は歴史的価値のある山ではあるが、これまであまり展望には恵まれなかった。しかし、数年前、頂上付近の伐採により、眺望の優れた山になった。特に猫平からの眺めは素晴らしい。登山者も増えているようだ。

堤が思ったより狭かったなどの難点もあった。来年は一目山あたりが地図研修には良いかなとも思っている。

登山教室　本宮山頂

参加者　受講生　16人
会　員　５人　鹿島、阿南、佐藤(裕)
笠井、上野

第９期　登山教室
（実践講座 鋸山）
2022年11月27日（日）
（会員　16315　佐藤裕之）

11月27日（日）

３回目の登山教室
テーマは、ちょっと難しい山に登る

美しかった鋸山駐車場の紅葉も大半が散ってしまったが、わずかに残った紅葉が目を楽しませてくれる。

総員25人で、鋸山を登るのはちと人数が多い気もするが、受講生12人を１名超える会員等の参加は心強い。３班に分かれて出発。

コースは反時計回りに指定されているので、まず、大観峰の難場を越えなくてはならない。真っ先に難しいところが来るので、徐々に慣らして様子を見るというのができないところが、不安ではある。ちょっと心もとない受講生もいるが、リーダー等のサポートにより無事通過する。

絶景の連続ではあるが、稜線はやせており、転落等がないか、心配である。

一般的には熊野摩崖仏へは行かずに、周回して下山する。それでは時間が短すぎるので、熊野摩崖仏まで歩くと、充実感がある。摩崖仏から稜線に戻って岩尾根を下ることも考えたが、受講生の疲労も考慮して、一般道を歩いて周回した。受講生の中には、かなり疲れをみせた者もおり、一般道を歩いて帰ったのは正解であった。車道を歩くのも、それはそれで楽しいものだ。

他のパーティーに比べて組織的に行動したのは良い点であった。受講生も全員ではないが、かなりの者がヘルメット持参しており、まじめに取り組んでいると言える。

反省としては、受講生のレベルに比して難易度が高いという指摘があった。本日課題の「ちょっと難しい」という設定が、まさに難しい。登山にリスクは避けられないとは言え、初心者にとっては、鋸山は難しかったかもしれない。昨年は津波戸山で、難易度の異なる３コースを設定して実施した。この方法に戻るのが良いのだろうか？

熊野磨崖仏前にて

稜線を行く（八方岳付近か）

受講生　12人

会員等　13人　安東、鹿島、佐藤(裕)、丹生
久知良、平原(健)、平原(瑞)
中野(稔)、中野(梨)、笠井
上野、古谷(耕)、佐藤(美)

個 人 投 稿

ペンリレー第45回
今回はお休みです

より安全な登山のために　No. 46
『あまりにも多い夏山遭難　なぜ？』

（会員　9193　安東桂三）

今年の夏山（７月～８月）は、山岳遭難が例年になく多発した。９月13日に警察庁から、夏山遭難が増加したと全国統計が報告された。遭難発生件数は668件で前年比135件増、遭難者数786人で前年比189人増、多くの県、多くの地域で遭難が発生した。コロナによる行動制限がないとはいうものの、山小屋や交通機関などで感染対策が取られ、宿泊者の人数制限により、登山者数はコロナ前には戻っていないにも関わらずだ。

最近の遭難事故で、気になる遭難は、いくつかあるが、単独行動による登山で死亡事故が多いのが、気になった。

この原稿を書いている10月の中旬で、長野県だけをみても、１日燕岳単独男性疲労行動不能、２日北穂単独男性落石負傷、３日の爺ケ岳単独男性転倒、４日の白馬大雪渓単独男性滑落死亡、７日きのこ採り単独男性行方不明、同じく７日北穂単独男性滑落死亡、８日前穂単独男性道迷い行動不能。10日間で、単独男性の事故を拾ってみたが、こんなに多い。年齢は30歳代から80歳代と範囲は広い。

伯耆大山でも死亡事故があったが、少し考えてみたい。

伯耆大山では、９月12日に48歳の単独男性が、南壁の三の沢で亡くなっているのが見つかった。登山歴１年で、登山届は未提出、装備は軽装、妻には、11日登山アプリで「今から大山に登る」とメッセージ。登山日の深夜になっても下山報告がなく、妻が警察に相談したところ、男性が借りたレンタカーが見つかり、そこから捜索が始まり、槍ヶ峰の南側のガレ場に倒れているのが発見され、死亡が確認された。

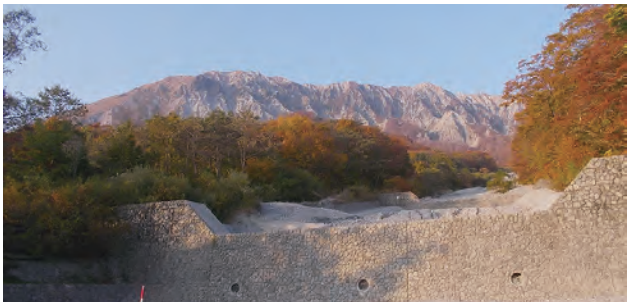
三ノ沢ルートは、インターネットに「崩れやすく危険」だとか「立ち入るべきではない」などの表現がかかれているが、三ノ沢ルートを登った報告が多い。ネットに掲載している方は、他人に薦めてはいないが、私は登っているというような表現が多い。他人に薦めなければ、ネット報告せねば良いと思うのだが。

鳥取県警の山根利之さんは「男性は軽装で靴も運動靴のようなもので、ヘルメットもかぶっていない。単独でこのルートをたどったとすれば、あまりにも怖いもの知らず」と言った。

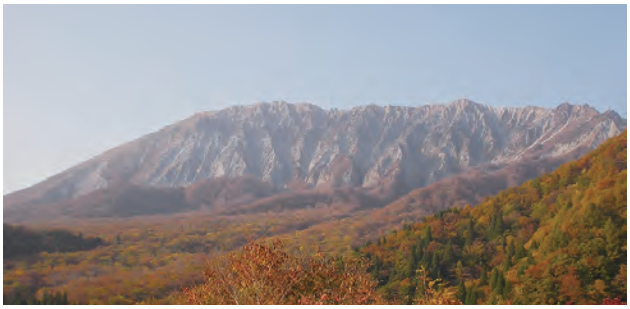
インターネットを見ると、そう難しくは無いように見えるが、インターネットを発信している人のレベルもわからず、あるいは、GPSデータも正しいものではないかもしれない。でもインターネットを見ていると、そこが登れるような錯覚を覚えてしまう。自分の登山力と、実際の自然の厳しさは、かなり隔たりがある可能性がある。

この男性が亡くなって、伯耆大山では、今年合計４人が亡くなってしまった。この４人は、いずれも登山届を提出していなかった。また、このエリアで、今年16人が遭難し、そのうち４人しか登山届を出していなかったという。

そこで、鳥取県警琴浦大山警察署では、地元の



三の沢入口の堰堤



伯耆大山南壁

温泉施設と協定を結んだ。登山届を提出した登山者は、温泉入浴料の値引き、物品の割引をするようになった。安全は温泉入浴料を値引くことで、担保されるわけではないが、苦肉の策か？。

分水嶺踏査で習得した登山技術

（会友　11　安部可人）

日本山岳会が18年前全国分水嶺調査を行った。これはその記録の一場面である。一台のGPSが貸与されたが、中野氏以外は使えなかった。多分60CS型であり、暗い植林ではロストして、役たたずだ。その後改良された私のGPS60CSXは完成品です。GPS以前はまさしく地形図とコンパスと高度計を駆使するやぶコギでした。アプリが登山の楽しみを奪った。

平成15年（2003）、７月（第23号）児玉章良報告、妻子ヶ鼻、南外輪山　「夏というのに寒い、深い霧の中、地図を見ながら道のない牧草地を登る。ケーブルTVの取材が同行していた。５分で三等三角点妻子ヶ鼻着。清水峠から２km長谷峠着。遠江さんのソーメンをいただく。中坂峠で安部先生の手作りのトマトをいただき、月廻り温泉館へ。この日は楽勝だった。

８月　蛇越岳～立石山八重康夫報告、「立石池を出発、880に高度計を合わせた。いきなりヤブ漕ぎ状態になった。中野さんが紙テープでしるしをつけ、安部さんはナタ目を付けながら登った。独りでは下りが怖くて登る気にならない。蛇越岳山頂に着いた。次は立石山。飯田さんが車道から入る前、ピークと地図を眺めながら、まずルートをイメージして、、、と言ったのが印象に残ったし、勉強になった」昔の会員は地図と磁石を見ながら、道なきをかきわけた。

９月黒岳・黒木山・玖珠山　佐藤秀二報告、「黒岳牧場の柵を乗り越えてはいる。阿南さんの子供はゴーグルをつけている」、（安部石川も一時期使用した）。「無田の台の４等三角点794.0着。ここが黒木山なのかと論議がわくが、いろいろ意見が出て結論はこの標識が間違いとなる（実は間違いではない）。黒木山は688.5だから高度計でも判断できる。黒木山（鬼ヶ城牧場内）はまだ２km先だ。阿南さんの子供が限界は当然であり、大人も止めた。18年後の夏、コギコギクラブが黒木山まで歩いた。アプリがあるから議論はわかなかった。

10月　竜ガ鼻　安部可人報告、「朝から雨，気は重い。香春をすぎて新金辺トンネルから金辺峠へ。高度計は205m、高度差480mである。手前のヤブへなんの躊躇（チュウチョ）もなく飯田さんは入っていく、（技術を習得して、今は独りが怖くない）。雨後の急斜面はずるずると滑り落ちる、苦労する。はたしてたどり着くのかと不安、高度計は670m、終りに近いと判断できた。霧の山頂まで４時間かかった。しるしのおかげで迷うことなく下山した。（注）迷った人が現在地の高度（座標がベスト）の情報をくれないと助けに行けません。トイレで離れた初心者が遭難死した。依然として地形図不携帯は優秀なリーダから絶対離れてはいけません。令和３年８月12日　あんべよしと　地形図「豊後森」

私の無名山ガイドブック　No. 86

（会員　10912　飯田勝之）

高鼻 (222.2m)・大谷 (231.2m)・東谷 (396.2m)

前回までの続きとして、旧野津町南部の小高い峰を三つ紹介しよう。野津から三重に向かうと前河内あたりから左に見える二つのピークが高鼻と大谷、野津の清水原から 佩楯山へ向かう途中の長谷の前方で気になるピークが東谷である。

高鼻（たかはな）

野津川と支流の前河内川に挟まれた稜線の、前河内川の源流部にある小ピークである。一帯は丘陵状の山が連なり、そのほとんどが、スギ、ヒノキ、クヌギの造林地で、三角点があるところもクヌギ林である。

国道502号線の前河内から町道前奥線を入り、約１kmで右（西）奥に池があるところから、左（東）に入る荒れた林道がある。ここが登り口によい。カヤの茂る荒れた急な坂の林道を登ると、約10分で平らになり、わずかに下ると小さな鞍

部で、緩く右カーブして二つに分かれる。右を行くと目の前のピークにつき、頂上に石の祠がある。左の道を行くと緩い登り数分で二手に道が分かれて、右の斜面を登ると２分で丸い山頂に着き、ほぼ中央の根ザサの中に四等三角点がある。
参考タイム：市道→20分→山頂
地形図：犬飼

大谷（おおたに）

南野津で前記の高鼻の西に並んで前河内や吉田の里の南に鎮座する峰である。国道502号線の南野津の吉四六大橋の北から東に小径を入り、吉田川べりにおりて、その先の畑の中を上る道を行くと広い茶畑となる。この茶畑の中程に車を置いて畑の中を歩くと、畑の南東最奥に至る。畑の際はヤブに覆われているが、ヤブを分けるとその奥に古い林道がある。緩い登りの林道を行くと10分ほどで稜線上から山の右手（南）を道は巻き始める。そのあたりから左の稜線の林に入り、まっすぐに稜線をいくと道から５分足らずで広い山頂に至り、山頂のやや北に寄った地点に三等三角点があり、南東７ｍのところには古い祠の台と横に『大山祇』と彫られた三角錐の石がある。
参考タイム：茶葉畑→20分→山頂
地形図：犬飼

東谷（ひがしたに）

前回紹介した岩屋や一反吉田のピークと、野津川を挟んで西に対峙するピークである。付近の山林は広い範囲でスギ、ヒノキの植林地であるが、山頂部の東側斜面は急峻な地形のために広い範囲で広葉天然林が残る。山頂部は南北にほぼ同じ高さのピークを持ち、三角点はその北側にある。

県道山部野津線の長谷バス停から西に入る林道長谷椎原線を上ると、県道から約1.8ｋｍのところに大きな右カーブがあり、そのカーブ地点から左に上る作業道がとりつきに良い。荒れた作業道をジグザグ登りで15分、作業道が切れたら、直登して数分で稜線に達する。稜線についたら左（南）へ快適な登りである。東向きにカーブしながら稜線のみ広葉樹の残る斜面を登れば、10分足らずで小さな台地状の山頂に達し、三等三角点はその一番手前にある。三角点から南東に50ｍあまり行くと最高地点で東側の展望が開ける。
参考タイム：林道→20分→稜線→10分
　　→三角点
地形図：佩楯山

個人山行
前穂高岳北尾根

2022年７月23日（土）～26日（火）

（会員　9193　安東桂三）

１．日程

7/23　大分発９時23分～（自家用車）～岐阜県平湯あかんだな駐車場21時13分着。

7/24　あかんだな駐車場４時50分発の バスで上高地へ。
上高地５時38分発～涸沢11時58分着。
56のコル下まで、下見へ、２時間ほど。

7/25　涸沢小屋３時58分発～56のコル５時27分～34のコル７時49分～前穂高岳11時28分～岳沢小屋15時着。

7/26　岳沢４時30分～上高地６時25分。７時のバスであかんだな駐車場へ、入浴などして、車で、大分へ。大分着22時。

２．報告

昨年の奥穂高岳南稜登攀の時に、前穂の北尾根を次の目標と決めた。梅雨時期とコロナ感染拡大など、登攀日を山行を考えていたが、７月25日には、良好な天候になるとの判断で、25日を目標として計画した。

コロナ禍で、公共交通機関は使わず、自家用車での移動とした。上高地から、歩き出して、３時間。横尾にて、遭対協のメンバーに止められ、涸沢ヒュッテでは、コロナ感染クラスターが起こり、本日から、宿泊が出来ないと指導を受けた。３人で３台の携帯電話で、涸沢小屋と涸沢ヒュッテに連絡しようと、電話をかけまくるが、つながらず。やっと涸沢ヒュッテに連絡つながったが、宿泊不可であった。また涸沢小屋には、200回くらいかけてつながり、何とか、本日の宿泊予約が取れた。涸沢小屋に到着後、56のコル下まで、下見に登った。明日は暗いうちに出発するので、道迷いを避けるための下見だった。雪渓もアイゼン不要で歩けるのを確認した。

北尾根。涸沢小屋で、軽い朝食をとり、３時58分にヘッドランプを点灯し、出発。池巡りコースから、ヘリポート、雪渓を登り、右岸につけられたガレ場の道を歩き、56のコルへ。ハーネスなどを装着して、５峰のリッジを登り、５峰の頂上付近は涸沢側をトラバース。４峰は、岩積の不安定なリッジを登り、途中より、ロープにつながった。コンテとタイトシステムを使い、４峰の頂上へ。34のコルでは、２組の先行パーティがいたので、36分ほどの休憩となった。60ｍロープ一本に３人がつながっているので、30ｍ毎にピッチを区切らねばならず、区切る場所の選定に苦労した。

３峰の２ピッチ目の奥又側を回り込むフェース、３ピッチ目のチムニーの上の凹角とクラック、４ピッチ目のザックが当たる少しかぶった凹角が少し難しかった。２峰の下りは、懸垂下降をしたが、ロープがスタックしたので、登り返した。そして、前穂高岳に昼前に登り上がった。

昼食後、ゆっくりと一般ルートを下り、岳沢小屋で反省会をした。翌日、早くに下山し、大分へと帰り着いた。

３．反省

コロナ禍では、宿泊施設でクラスターが発生すれば宿泊出来ない。今回、予約していた涸沢ヒュッテが、当日の朝、宿泊出来ないこととなり、宿泊場所を替えることとなった。もし代替え小屋が無ければ、計画は実行されず、そこから帰るか野宿の選択しかなかった。テントを持参するのも準備の段階で検討すべきだった。

地震。ここ毎年のように長野県では、地震が起こり、山は不安定な状況となっている。過去には、難しくなかったルートも浮石が多く、危ない。４峰も悪く、涸沢側を巻くところは、怖い思いをした。以前は、フリーで通過出来た場所も、状況が悪い。３峰は比較的浮石が少ないが、注意を要した。また、残置支点が古いので、信用おけない。キャメロットを３本持って行ったが、非常に良かった。２峰の下りは、懸垂下降したが、ロープがスタックした、反省。

４．メンバー

安東、笠井、上野

前穂高の山頂

個人山行
越後・信州の山々①

2022年８月22日（月）～26日（金）

（会員　16315　佐藤裕之）

八海山

・日　時　：　８月22日（月）　晴れ

大分から新潟県まで車で行くのは初めてだが、無事八海山麓のペンションに到着する。八海山には、東側（新開道）から登り、ロープウェイで降りる予定であったが、宿の主人が「それは難儀だ。ロープウェイからが初心者コース」というので、震えあがった初心者親子は、予定を変更し、西側からロープウェイ利用することにした。

ロープウェイからは、はじめは緩やかなプロムナードコース。千本檜小屋を過ぎると、途端に険しくなり、岩場の連続となる。ここの岩場の特徴はホールド、スタンスがきわめて小さいことから、思い切り鎖に頼らざるをえない。これは、あまり気持ちよくないが、思ったより難しくなく、何とか難所をクリア。次に、最高峰の入道岳に登らないと八海山に登ったことにならないので、頑張って登ることにした（入道岳までは、あまり人が来ないようだ。）。山頂から見る越後駒ケ岳と中ノ岳の眺めは、北アルプスにも負けない素晴らしいもので、いつまでも眺めていたい山頂であった。

登頂後、東側の尾根を下る予定であったが、時間に余裕がなく、危険と判断して、まき道を通ってロープウェイ乗り場に戻ることにしたが、最終的にロープウェイに間に合わなかったので、800ｍの下りを自分なりに飛ばして降りた（三男は走って車を取りに行った。若者は元気で良い。）。

登っている最中は大変だったが、振り返れば楽しい八海山の岩場であった。

八海山を離れて、19時半過ぎ、奥只見湖近くにある銀山平キャンプ場に到着。利用客は少ないようで、真っ暗である。ここは、あまり設備は良くないが、テントを張って寝るだけなので、あまり関係はない。

13.9km　登り920m　下り1720m　９時間40分

八海山から越後駒ケ岳と中ノ岳　岩峰を下る

荒沢岳

・日　時　：　８月23日（火）　曇り

６時に、銀山平登山口駐車場出発。すぐに水場があり、冷たくおいしい水を補給できる。前衛峰の前山までは、調子が良かったが、次第にペースが遅くなる。年のせいかとも思ったが、軽い熱中症のようでもある。本当に熱中症なら、下山すべきだが、何とか体が動く。また、ここまで出直すのも大変なので、登り続ける。

やがて、前嵓という難所に到着。前半部は、じめじめした岩場で、岩がザクザクして気持ちが悪い。おまけに梯子が固定されていないものがあり、ゆらりと揺れて肝を冷やす。

岩場をいったん登った後、緩斜面を下ると、岩場の基底に着く。ここから、とにかく長い岩場を登らねばならない。一見、難しそうだが、順層でスタンス、ホールドがしっかりしているので、意外に登りやすい。

前嵓からも調子が上がらないが、1900ｍの稜線に出てようやく調子が戻った。アルペン的な岩稜を登って、ようやく山頂に着く。山頂からの眺めは、雲に覆われて一部しか見えないが、なかなかのものであった。

下りは平常ペースに戻ってさくさく下る。前嵓から下を見るとグレートトラバースで見たのと同じ急な下りだ。落ちれば即死だが、慎重に下れば特に危険ではない。三点指示でゆっくりと降りていく。今日は調子があがらず、下山できたのは出発からほとんど12時間後であった。

その後、キャンプ場に行き、テントを撤収して温泉に浸かり、次の民宿に行く。

荒沢岳の鎖場は２段合わせて200ｍほどにもな

ろうかという長いもので、どのような鎖好きでも十分堪能できるのではないだろうか？
9.2km　登り・下り1414m　11時間55分

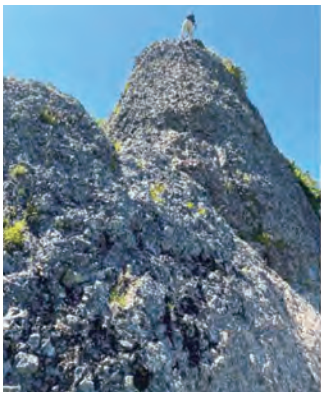
平ヶ岳

・**日　時**　：　８月２４日（水）　曇り後晴れ
・**コース**　：　中ノ岐登山口
（銀山平登山口から、福島県方面に移動し、沢に入る。）

平ヶ岳は、本来、鷹巣登山口から往復12時間かけて登るのがメインだが、今回の山行の日程が

荒沢岳頂上付近

核心部


八海山

平ヶ岳頂上付近

ハードで、この老体では体力が持たないと判断した。そこで、裏技を用いる。地元の御宿に泊まるとバスを出してくれて、何と６時間ほどで登れるコースに連れて行ってくれる。これなら自分でも登れそうだ。

宿を４時出発。５時半に登山口に着き、用を足して出発する。初めは、厚い霧に覆われていたが、山頂付近の湿地帯に着いた途端にガスが上がって、急に見晴らしが良くなり、２人とも感嘆の声を上げる。名前のとおり、頂上はだだっ広い草原、湿地帯となっており、素晴らしい景観である。日本アルプスのような高山以外で、このような美しい山頂部はめったにないだろう。さすが日本百名山である。名物の玉子石やヒカリゴケも見学して十分堪能する。本日は、平常ペースに戻って安心する。

下山後、銀山平から高速で２時間ほど走って長野の北側に位置する観光地、戸隠に着く。昔から忍術で有名だ。忍者の代表格の猿飛佐助も戸隠で修行している（ただし、猿飛は甲賀流で、戸隠流ではない。）。

お宿の「山舎戸隠」は造りが山小屋そのもので、中でも、日本山岳会がダウラギリに登った時の絨毯は一見の価値がある。食事は良いが、山小屋なので、浴衣はもちろん、歯ブラシもない。良いところは要望により、５時半に食事を出してくれることだ。山登りには何よりありがたい。
8.2km　登り・下り　1000m　６時間８分

８月25日　戸隠山に登る予定であったが、早朝から雨が降り出す。雨の中、戸隠山に登る気は・・・・起こるはずがない。観光に切り替え、

平ヶ岳山頂付近の餓鬼の田　　ヒカリゴケ

戸隠神社、忍法からくり屋敷を楽しむ。戸隠そばは、やはりうまい。本日は、戸隠キャンプ場に泊まる。

今日、戸隠に登っていれば、落ちたかもしれない。神様が雨を降らせてくれたんだね。と三男と話す。

飯縄山

・**日　時**　：　８月26日（金）
・**天　候**　：　晴れ
・**コース**　：　西登山道
（ちびっ子忍者村のすぐ近く）

なんとか、雨も止んだので、飯縄山に登る。山道は歩きやすく、迷うところもなく、のんびり登って行ける。絶景と聞く飯縄山だが、残念ながら、本日は展望はなし。

この山の良いところは登山口（下山口）に温泉があり、汗を流して、食事もできることである。戸隠そばを食べ、十分に休養とった後、大分へ向かう。

7.7km　登り・下り　750m　４時間35分

〈参加者〉

佐藤(裕)、佐藤(貴)

個人山行
越後・信州の山々②

2022年10月８日（土）～11日（火）

（会員　16315　佐藤裕之）

霞沢岳

・**日　時**　：　10月８日（土）曇り時々雨

霞沢岳に登ったことがないので、登ってみることにした。北アルプスも上高地も４年ぶりである。止まっていた時計が動きだしたことを感じる。雨の中、いつもの道を明神へ。

明神は、これまで通り過ぎていただけだが、本日は宿泊。時間があるので、穂高神社に参拝。

明神館は、風呂もあり、なかなか快適だし、食事も良かった。

（当日）　前日の７日は１日中雨だったが、未明に上がり、穏やかな天気だ。まだ暗い４：45に出発。徳本谷を登って行くと星が見えだし、期待に胸が膨らむ。徳本峠までは道も良かったが、稜線は、降雨直後で、ぬかるんで歩きにくい。ジャンクションピークを過ぎると、さらに道は上り下りが激しく、歩いても歩いても霞沢岳が近くならない。

Ｋ１ピークの手前で、連れの足がめっきり遅くなる。Ｋ１ピークで停滞するという。絶対に動くな、と通告して、自分は霞沢本峰に向かう。地図にはない細かなピークがいくつもあり、けっこう時間がかかる。 たどり着いた霞沢岳は、何とＫＩピークより低い！　さらに何も見えない。ちょっとがっかりしながら、帰路に就く。下りも連れのスピードがあがらず、途中、芍薬甘草湯を飲ませると、少し足が動き出したようだ。

下山途中、久しぶりに徳本小屋に立ち寄る。島々への下り道は閉鎖され、廃道になりつつある。１度は歩いてみたかった新島々から徳本への道だが、歩くことのできる日は来るのだろうか？

行動時間　13：50　　距離20km

鉢盛山　高ボッチ山

・**日　時**　：　10月９日（日）　曇り

信州の地図を眺めると「高ボッチ山」というの

が目に飛び込んでくる。何とも不可解な名前で、昔から気になっていた山である。

高ボッチ高原に到着後、まずは、鉢伏山に向かう。登るには、駐車料500円と入山料200円が必要だ。ここには営業小屋があり、泊まることもできる。山頂は駐車場から30分もあれば、登れる。登るにつれて、北アルプスと美ヶ原がよく見えてなかなか絶景。簡単に登れて眺めも良い。何と素晴らしい山だろうか。

次に高ボッチ山へ。

高ボッチは、広い駐車場があり、自然保護センターやキャンプ場が併設されているので、バイクや車が次々と来る。ここから10分も歩くと山頂で、信濃の国の重心のプレートがある。また、八ヶ岳、南アルプスや諏訪湖も見える。これは信州でも屈指の大展望ではないか？

次の目的地、菅平への移動途中、松代に立ち寄る。ここは、松代城（旧海津城）、佐久間象山関連施設、真田屋敷など見所が多く、２時間くらいでは全部見切れない。

中でも、松代象山地下壕（いわゆる松代大本営）は、話には聞いていたが、ここまで、広大な地下壕が掘られていたとは知らなかった。信州に行ったときは、必見の史跡である。

四阿山（あずまやさん）

・日　時　：　10月10日（月）曇り後雨

本格的にスポーツをした人なら１度は行ったかもしれない、スポーツ合宿で有名な菅平高原の菅平牧場から登る。山は濃霧で見えないが、菅平高原が眼下に広がり、素晴らしい。

夜半に雨が降り出したが、夜明け前には止んだ。そのまま、天気も良くなるものと思い込み、登り始めた。一時は天候回復かとも見えたが、10：30ころから本降りとなり、頂上では休憩もままならない風雨となる。早々に引き上げ、根子岳への縦走を目指す。根子岳は道も良く、晴れていれば、展望も抜群と思われたが、全く何も見えない。山なので、いつも晴れてばかりいるとは限らぬ。登れただけで良しとしよう。（長野にも根子岳があるんだね。）

時間　７：00　　距離　9.7km

美ヶ原

・日　時　：　10月11日（火）　晴れ

夜明け前、牛伏山に登る。朝の光が美しい。

いったん、小屋に戻り、支払い手続きを済ませた後、王ヶ頭をめざす。登山というより、ほとんど散歩である。途中、美ヶ原のシンボルとも言われる美しの塔がある。テレビや写真で見るのと全く同じだ。当たり前だが。

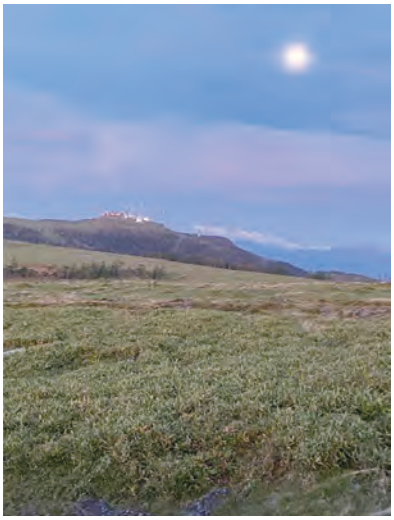
山頂付近は広大な牧場で、牛がのんびり草を食んでいる。頂上の王ヶ頭は、あまり眺望は良くないので、王が鼻を目指す。こちらは絶景である。ここからは、百名山の３分の１が見えるそうだ。北アルプスが安曇野の谷を挟んで間近に見える。

美ヶ原とは良くも名付けたものである。まさしく名前のとおりの場所である。

時間　２：30　　距離　7.7km

〈参加者〉

佐藤(裕)、**佐藤**(美)



王ヶ頭にかかる月

鉢伏山から北アルプス

個人山行
谷川岳一ノ倉沢南稜

2022年９月15日（木）～18日（日）

（会友　253　上野展子）

今年は天候が不順で７月の梅雨明け頃から決行できる時を探っていた。そしてようやくメンバーの都合と天候の状況から９/15～18、17日に登攀となった。

ルート　BC→一ノ倉沢出合→ヒョングリの滝→テールリッジ→南稜テラス→(７ピッチ)→南稜の頭(終了点)→同ルートを下降→BC

15日11時前に大分を出発、SAで仮眠、16日11時頃谷川BCに着いた。その後、ヒョングリの滝まで下見に行く。一ノ倉沢は６月下旬東尾根を登った時に一度下見をしていたがその時の雪渓は溶け全く違う姿となっていた。ヒョングリの滝と思われる所まで行き、その先のルートを確認した。(遡行図が古く現在と同じなのか少し不安だった。)この日の下見は完了。BCにて休息、夕飯を食べ19時に就寝。

17日朝３時に起床、軽く朝食を摂り暗い中ヘッドライトにて３時50分BCを出発。５時一ノ倉沢出合、緊張。前日の下見通りのルートを暗い中進む。途中少し迷う。空が白み始めた頃、沢への降り口が見えた。と、その時「あー」私は道を踏み外し２～３m滑り落ち沢への着地となった。「大丈夫かー」安東リーダーの声。他のパーティも駆け寄ってくれる。「何ともないです。滑っただけです」ああ、恥ずかしい。でも怪我をしなくて良かった。ここで終了となってしまうところだった。

いよいよヒョングリの滝。先行パーティが昨日確認したリッジを登っている。間違いなかった。その先の50m懸垂下降までこなす。テールリッジと南稜テラスまでのトラバースは状態が悪く、浮石落石要注意だった。滑落しそうな岩場を丁寧に登って行く。

南稜テラスでは先行パーティが１組。後ろでクライミングの準備。心臓がバクバク。リーダーに２人がロープで繋がる。リーダーが登って行くルートを笠井さんと確認し合いながら見つめていた。いよいよ我々の番、声を掛け合い、アドバイスし合いながら登って行った。１ピッチ目のチムニー、私が先行していたが、どう登ったらよいか分からず笠井さんと代わる。彼女が登り上がり、私は真似をして続いた。そして２、３、４ピッチとこなしていった。５ピッチ目、馬の背リッジ。先行パーティは60mロープを活かしてリッジを進まず５、６ピッチを続けて登ろうとしていた。我々は簡単なリッジへ行くはずが先行パーティに続いてしまう。リーダーが行き詰まるも先行パーティの助けを借りて登り上がり我々も続いた。

ついに最終ピッチ、真っ直ぐに立った岩肌、核心部だ。リーダーが登り上がり、合図とともに笠井さんの後を追う。南稜の頭、岩が逆層になっていて難しいはずだが、下調べが功を奏したのか難なく登り上がった。11時30分、３人で完登を喜び合った。

下山は同じルートを懸垂下降等で下って行く。50mロープを２本繋ぎ懸垂していった。笠井さんが振られたり、ロープがスタックしたりとトラブルはあったものの、14時40分頃には南稜テラスの隣(南稜フランケダイレクトルートのスタート地点)まで降りて来た。

ここからはトラバースとテールリッジをロープで繋がったり、懸垂したりと、丁寧に降りて行った。同じルートを、ロープを使う事なくどんどん降りて行くパーティもいたが。順調なはずだったが、ヒョングリの滝50mの登り返しの地点に着いたのは17時半、だんだん暗くなって行く中、ヘッドライトを点け先行パーティが登るのを待つ。先行パーティがロープを１本持って上がってくれると言うのでお願いし、続いた。ヘッドライトの明かりで足元を見ながら登ると言うのは初めてだった。草付きを進み最後のリッジを懸垂下降。安全圏に降り立った時はホッとした。一ノ倉沢出会に着いたのは19時53分のことだった。

反省　どうしてこんなに時間が掛かったのか考えてみた。

南稜テラスまでのアプローチが想像以上に悪かった。我々は他のパーティの様に危険な箇所をロープなしで降って行く事は出来ない。それならばどうすれば良いか、支点におけるお互いの意思疎通、今自分は何をするべきか、仲間が何をして欲しいと思っているか、時間をロスする事なく、着実にこなしていく事が求められていると思う、ロープがスタックしない様にとか、スムーズに出る様にとか、道具のやり取りとか。本番においてはその時持っている知識技術を最大限使う事、普段に置いてはもっともっと勉強して能力アップをする事と思った。谷川岳を登るに相応しいレベルになるように。

〈参加者〉
(リーダー)安東、笠井、上野

テールリッジの登り

正面　衝立岩　手前　テールリッジ

終了点からの懸垂下降

南稜1P目

個人山行
長崎県　竜頭泉

2022年10月15日（土）

（準会員　A0488　橋本桂）

東九州支部レポート

令和４年10月15日、長崎の竜頭泉に行った。

天気は晴れ。

本来ならば、宮崎の比叡山でマルチピッチの訓練予定だったが、天候悪化につき、行き先変更となった。

東九州支部に入会して１ヶ月。今回のクライミング講習も５回目だった。ベテランクライマーの諸先輩方に囲まれて登攀のいろはを学ぶ。今までの私は山仲間との山歩きや、ガイドさんと歩く事がほとんどだった。自分の山歩きを探すべく、思い切って新しい世界に飛び込んだ。右も左もわからなかった私が山岳会に入る。小さな世界しか知らなかった私の大きな一歩だった。最近は歩けば歩くほど…山の危険が、見えてきた。昨今の山岳遭難の事故を見聞きすることも多く、とにかく安全に歩きたい。そういった理由もあった。

経験のない私が初めての竜頭泉、安山岩を登攀させていただけるとは貴重な経験だと感じた。事前に予習していたがいざ、壁と向き合うと写真で見たものとは全く違った感覚があった。手の置き場から足の置き場戸惑うことが多かった。トップロープで先輩方のアドバイスを全身で感じながら上へ上へと目指す。時に墜落して身体が振られながらも諦める気持ちには全くならなかった。何よりも、難解な岩と向き合い登攀できた喜びが病みつきになるような感覚に目覚めた。

登攀だけでなく、ビレイや、ロープワークの技術を磨く機会に恵まれた。全てにおいて未熟な点が多く、まだまだエイトノットもろくにできない自分がいた。何度も教えていただいているにも関わらず…身につけていない自分を先輩に指摘された。一度聞いたら自分のものにしなさいという先輩の言葉を思いだす。日々の生活を言い訳にきちんと山と向き合っていない自分を感じた。情け無く、恥ずかしい思いがしたがひとつひとつ積み重ねてこれからを歩いて行きたいと思った。今まではひとりで山を歩く事がほとんどだった。真剣に指導してくる諸先輩方に感謝を感じた。山を学び、人との繋がりも学んでいるような気がしている。

山と向き合う。それは厳しい世界だと思っている。しかし、それ以上に素晴らしいものだと。半端な気持ちでは山は私に振り返ってはくれない。今の私にはまだまだ課題が多い。これからの私が山と真摯に向き合っていけるように。心から精進したいと思っている。

千里の道も一歩から。近道はないと思って。

<参加者>

安東、田所、佐藤(彰)、笠井、橋本

上野、川村(寅)、川村(美)、寺道

安山岩の竜頭泉

ガンバ！！

木本義雄さん（12019）を偲んで

（会員　10912　飯田勝之）

木本義雄さんに初めてお会いしたのは平成７年の秋で、その日はたまたま勤務を終えて帰る途中で『山の店サニー』に立ち寄った時のことであったと思います。西孝子さんから「木本善重さん息子さん」と紹介され、令嬢の礼子さんとご子息の慶太郎さんを伴って同時本会に入会とのこと、日本山岳会に親子３代の入会は支部始まって以来だとの紹介でした。

お父さんの木本善重さん（1916～1987・会員番号4848）は私と同じ県職員の大先輩であり、別府市の住まいで、当時二豊山岳会の同じメンバーであった野口秋人先生や南崎大海さん三谷忠一さんなど別府の山仲間とともに昭和35年の大分支部立ち上げに加わった人です。(ちなみに三谷忠一さんは私と同町内の大先輩でご子息が私の二代前の自治会長で、古くからの知り合いである

入会の当時は、木本さんはまだ勤務先の社宅のある朝霞市に住んでいたが、長い間の船乗りさんで、もっぱら外国航路で働いていたが、そのころは陸上勤務の代わっていたとのことでした。彼と一緒に山に登ったのは入会後一年ほどたった後の、延岡の行縢山への月例山行であったと記憶しています。ゆっくりマイペースで登っていた姿が記憶に残っています。その後も会社を辞めるまでは大分での山行はご一緒できなかったが、ご令嬢の礼子(12021)さんは月例山行やその他の支部の行事にもよく参加して顔を合わせる機会は多かったし、ご令息の慶太郎(12020)さんは現在も関東住まいで一度も山でお会いすることはないが、年末恒例の年次晩餐会では度々お会いしていました。

平成10年１月の月例山行は元越山で、その時初めて父と娘が一緒だったのに加えて奥様もご一緒だったが思い出されます。この方は私の職場の関係で顔を見知っていたが、木本さんの奥様と知ったのはこの時が初めてでした。（聞くところによると、奥様は高校の後輩で、鹿児島大学の学生寮生活中に出合い、その後ゴールインしたとのこと）

私もそうだが、木本さんも自然との触れ合いを登山の最大の楽しみとしていた方で、そのことは支部報のペンリレー・第20回（73号・H28年4月25日号）に執筆されています。

会社を辞めて大分での生活が定着したころからは支部の月例山行や行事にも参加の機会は増え、平成24年度から支部役員に名前を連ねて支部活動に参加され、特に平成28年夏に故下川幸一氏の後を受けて会計に就任され、以降退任される令和３年４月まで尽力されました。定期総会での決算報告や予算案の提案などを、じっくりと懇切丁寧に説明していた姿が思い出されます

10年ほど前から発病していたそうですが、５年ほど前から症状が次第に進行して、一緒に登っていても「息切れがひどいからゆっくり行きます」とマイペースで登って、自分なりの山を楽しんでいました。

木本さんの温厚篤実そのものの人柄は、接する人に温もりと安心感、信頼感を覚えさせるものがありましたが、山への接し方にも人柄が出ていて、じっくりと山にふれあう歩き方が脳裏に浮かびます。一年前に私も一緒に支部役員を辞めたあとは山でもお会いする機会がありませんでしたが、病気の治療は非常に難しく、症状が進行する中で本人もそのことは自覚していて、最後は自宅で終えたいと入院を拒んでいて、ご家族のもとで亡くなられらとのことです。どうぞ安らかにお眠りください。そうしてあの世でお父さんと楽しく山を語りあってください。合掌。

略歴

・昭和20年８月23日 別府市生まれ
・上野丘高校、鹿児島大学卒
・海運会社に就職し20万ｔ級石油タンカーや鉱石運搬船等に乗り組み、米、欧、豪、中東などに寄港・歴訪経験あり
・1995年５月 日本山岳入会
・令和４年９月23日 逝去（享年76才）

会　務　報　告

支部会議報告

第３回役員会　９月２日（金）大分市西部公民館

１．青少年体験登山大会について
２．第９期登山入門教室準備について

支部ルーム開催状況

８月５日（金）
　　大分市西部公民館　出席者　　５名
９月２日（金）
　　大分市西部公民館　出席者　　13名
　　（役員会兼ねる）
10月7日（金）
　　大分市西部公民館　出席者　　５名

支部ルーム開催予定

11月４日（金）
　　大分市西部公民館　18：00～
12月２日（金）
　　大分市西部公民館　18：00～
１月６日（金）
　　大分市西部公民館　18：00～

月例山行のご案内

11月例山行：米神山(475.0m)

日　　時‥‥11月13日（日）
出　　発‥‥11月13日（日）
集合場所‥‥佐田京石登山口（午前8時00分）
参加申し込み期限‥11月7日（月）まで
担当リーダー‥‥河野達也
参加申し込み‥‥（携帯）090-9565-5478
Email　kawanoty@nbu.ac.jp
※地図　立石　1/25,000

12月例山行：照山(176.3m)

（忘年登山）

日　　時‥‥12月10日（土）
出　　発‥‥12月10日（土）午前10時発
集合場所‥‥まほろば物産館駐車場
参加申し込み期限‥‥11月７日（月）まで
担当リーダー‥‥安東桂三
参加申し込み‥‥TEL　097-597-7120
（携帯）080-3187-2003　事務局（阿南寿範）
Email　beca5844@otc-net.ne.jp
※地図　宇佐　1/25,000

☆ お知らせコーナー ☆

１月例山行(登山教室)：黒岩山・泉水山・三俣山

（冬山体験）

日　　時‥‥令和５年１月14・15日(土・日)
出　　発‥‥１月14日（土）
集合場所‥‥九重ヒュッテ（泊）
参加申し込み期限‥‥（受講者に事前連絡）
担当リーダー‥佐藤裕之
参加申し込み‥‥（携帯）090-5198-8204
Email　sa10h@mail.goo.ne.jp
※地図　湯坪・大船山・久住山・久住 1/25,000

第９期登山入門教室開催について

第５回　11月27日（日）
　　実践講座　田原山（鋸山　542m）
　　岩場のあるちょっと難しい山に登る。
第６回　１月14日（土）～１月15日（日）
　　山小屋に泊まって山を楽しむ。
　　冬の久住山（1787m）に登り、
　　冬山登山の基礎を学ぶ。

古道調査の日程について

1．9月10日（土）
　　（C班）第11回　国崎町川原～京一
2．9月24日（土）
　　（A班）第12回　真木大堂～山香支所
3．10月15日（土）
　　（B班）第13回　並石ダム～天念寺
4．10月22日（土）
　　（C班）第14回　京一～椿八幡社
5．11月12日（土）
　　（A班）第15回　山香支所～妙善坊
6．11月26日（土）
　　（B班）第16回　天念寺～応暦寺
7．12月17日（土）
　　（C班）第17回　椿八幡社～奈多八幡社
8．1月21日（土）
　　（A班）第18回　妙善坊～田染中学

2022年度 中級者研修開催のお知らせ

11月23日（祭）アイゼンワーク
　場　所・・・・・高崎山　大谷のゲレンデ
1月7～9日　冬山登山
　場　所・・・・・伯耆大山

2022年度 忘年登山及び忘年会のお知らせ

忘年登山：実施日　12月10日（土）
　場　所　宇佐市「照山」1763m（縦走３～４時間程度）ハイキング程度の山行。
　集合場所及び時間　宇佐市下拝田まほろば物産館駐車場　10時集合
　コース　参加者にお知らせいたします。

忘 年 会：実施日　12月10日（土）泊
　場　所　日本文理大学湯布院研修所
　時　間　18時30分から
　料　金　12,000円～13,000円程度（宴会+泊）

参加方法：①忘年登山「照山」参加のみ　（0円）
　②忘 年 会（宴会のみ）参加（5,000円程度）
　③忘年登山「照山」+忘年会（宴会+泊 12,000～13,000程度）
　④参加しない。
　※料金は、宿泊代金5,500円のみ把握してますが、後は後程提示いたします。

申し込み：上記①～④から選び、東九州支部事務局（阿南）まで連絡下さい。
　会場の都合もありますので、確認を早めにお願いします。

東九州支部事務局　阿南寿範
（携帯）080-3187-2003
Email　beca5844@oct-net.ne.jp

22年度 会員･会友の入会について

（令和４年７月以降）

1．寺道和代　会友262　2022.10入会
2．河村典子　会友263　2022.10入会
3．川村寅斉　会友264　2022.10入会
4．川村美枝子　会友265　2022.10入会

４名の方が会友に入会されました。
宜しくお願いします。

自然保護委員会からの協力について

本部自然保護委員会では、山岳環境の変化を後代に伝えていくために冊子作りを行うことに致しました。

支部の毎年通っている山岳域、調査を続けている山岳域などで、昔と現代の写真比較ができる場所がありましたら、写真と、その写真に関する記事を募集いたします。

記事の例など詳しく知りたい方は、事務局阿南まで連絡お願いします。
募集期間は、２月末までといたします。
宜しくお願いします。

支部役員会開催のご案内

支部役員会を下記の通り開催いたしますので役員の方はご参集下さい。

日　時‥‥‥令和４年11月10日（木）
　　18時30分より
場　所‥‥‥大分市西部公民館
議　題‥‥‥①登山入門教室実践講座について
　　②忘年登山及び忘年会について
　　③古道調査の進捗について
　　③その他

支部報100号（１月25日発行）の原稿募集

東九州支部にとり、記念すべき支部報となりますので、山行記録のみならず、随筆・感想などテーマはフリーです。是非ご投稿くださいますようお願いいたします。

※個人山行は原則、令和４年10月25日～令和５年１月25日の山行を対象といたします。

【原稿送信先】

・メ ー ル：kawanoty@nbu.ac.jp
　　河 野 達 也（090-9565-5478）
・締 切 り：令和５年１月16日

後記

今回の支部報より編集担当となりましたが、初めてのことで要領を得ず、これまでの支部報と比べて掲載記事が少なくなり、また発行が遅れたことをお詫び申し上げます。

これまで諸先輩方が大変な労力を費やし、作り上げられてきた域には到底及びませんが、少しでも近づくことができるよう、努力していきたいと思います。

支部報は、活動の記録のみならず、多くの大切な意義・役割があると思います。また、同時に支部ホームページ開設の必要性も感じています。支部報とホームページがリンクしながら東九州支部と支部の皆様の活動が充実したものとなるよう、先ずは目標として目指していきたいと思っています。

試行錯誤の連続になると思いますが、皆様のお知恵とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。 TK

公益社団法人日本山岳会東九州支部
東 九 州 支 部 報　第９９号
2022年（令和４年）10月25日発行

発 行 者　安 東 桂 三
編 集 者　河 野 達 也
印 刷 所　三和印刷出版㈱
発 行 所　事　務　局
〒870-1113　大分市中判田15-55　阿南方
TEL・FAX　097-597-7120
E-mail　beca5844@oct-net.ne.jp